

メイツ大森西災害対策マニュアル(震度5強以上の地震)検討案 (令和2年6月現在)

班	主たる任務	予防・備蓄目標	11月18日訓練内容	発災後30分以内	発災後1時間以内	3時間以内	当日夜まで	第二日目まで	三日目まで	十日後まで	三週間まで	三月々まで
統括情報班	全体統括 管理会社との連携 防災拠点との連携 生活再構築 修繕への取り組み	年間災害対応計画 防災マニュアルの毎年見直し	1 災害対策本部立ち上げ 安否確認集約 3 館内放送 4 全体指揮	自身と家族の安全確保後安否確認と救出活動 各階で安否確認 高層グループ 14～11階 中層グループ 10～6階 低層グループ 5～1階	大田区震度5強以上観測で、災害対策本部立ち上げ 理事・防災班は、自身と家族の安全確保後、各階の安否情報を集めて集金室へ。 ○火災がある場合、基本的に隣接小学校への避難は指示しない。 ○広域避難場所(平和島公園一帯)への避難は指示しない。(個人の判断による避難は妨げない。)※京浜急行・国道15号線・内川の防火帯に挟まれた立地から、ここに留まることが安全と判断。	対策本部にて情報集約 避難までの対応方針決定 居住不可能世帯は、防災拠点受け入れを要請 ○トイレ対策指示徹底 「確認できるまでトイレバック」を使用し、BOS袋で	対策本部にて情報集約 避難までの対応方針決定 居住不可能世帯は、防災拠点受け入れを要請 ○トイレ対策指示徹底 「確認できるまでトイレバック」を使用し、BOS袋で	当面の対応方針確立 管理会社と連絡を取り合い、支援要請	防災拠点に支援物資の直接配送を依頼 不可なら、リヤカー等で	中期的対応方針確立 区分所有者への連絡体制を確立	被災証明、地震保険の対応方針確立 緊急修理制度(住める場合) 「民間賃貸借り上げ制度(住めない場合)」の活用	マンション修繕計画のための「復興委員会」(関係「復旧総会」)に向けて計画
	安否情報集約 被災情報管理 要援護者情報管理 住民への情報伝達	住民防災情報の集約を機会に提案(個人情報保護法に留意) 事前に生活マニュアル(汚物・ゴミなど) 事前に作成しておく	1 トランシーバーで安否確認集約 2 ラジオ等で災害情報収集 3 災害への対応情報提示	各階で安否確認 高層グループ 14～11階 中層グループ 10～6階 低層グループ 5～1階 館内安否確認用周知図形表示、ヘルメット、トランシーバー、救出用具を持参して、	最上階に人員と機材を上げ、上から安否確認認して本部、対応班に連絡 ネット、ラジオ等による防災情報収集 要取り回で、安否情報集約の通電なら、館内放送で情報共有	住民の被災状況、避難情報集約 通電なら館内放送で情報共有 部屋の被災状況、住民避難状況についての情報収集	停電なら掲示板、口コミで伝達。 火災延焼などの情報を区地図に表示 住民の安否情報管理 汚物やゴミ等の取り扱いを、掲示板表示、ドアポストに投函 通電なら、館内放送で情報共有に努める					
救出消火教護班	初期消火 救出活動 近隣救出活動 要援護者移動支援	家具固定の呼びかけ	1 初期消火訓練 2 救出機材展示 3 救出訓練 4 搬送訓練 (担架・車いす等) 5 家具固定呼びかけ	高層階安否確認隊 1303大池 1209大橋 1109荒山 1102小澤 麓川 松本 1208矢部 まず、自分の階の安否確認し その後、14階から安否確認 中層階安否確認隊 1110松本光 1103福山 908中野 810長谷川 704町田 713田中 低層階安否確認隊 505杉本 501小林 313滝元	非常階段を下りながら館内被害状況確認 エレベーター確認 火災発生なら、119番通報し 別階から消火器を持参して対応	館内見取り図を持って安否確認情報収集 ヘルメット(ライト付き)、バール、ハンマー、木材、虎ロップ等で救出活動	余震に対応した安全の呼びかけ 危険世帯は防災拠点へ誘導 禁止事項の書面をドアポストに投函。	家具転倒、ガラス散乱など支援が必要な世帯に、館内ボランティアを募って対応 火事場厄介対策				
	応急手当て トリアージ 負傷者搬送手配 要援護者ケア	軽症者は各家庭で手当てできるように応急セットの備蓄呼びかけ	1 応急手当て訓練 2 AED訓練 3 搬送病院の説明 4 搬送方法の説明	応急手当て 心肺停止ならばAED	中層者以上の病院搬送手配 2時間以上会室に挟まれた人は、クラッシュ症候群疑い、大量の水かスポーツドリンクを飲ませてから救出、病院搬送。	医療を要する人の搬送手当居住困難者の情報収集	要援護者の共助、支援体制確立					
	トイレ対策 水対策 ゴミ対策 電話対策	水、食料、トイレバック備蓄の呼びかけ(最低三分)	1 トイレバックの発表・説明 2 地下受水槽からの水採取訓練	夜間発電機起動・投光器で館内共用廊下照明	集金室トイレ使用にピンビニル袋をかけ、トイレバック用意	地下水タンクからの給水体制(塩素濃度測定し、塩素あれば、飲料水可、塩素0なら生活用水へ) トイレ使用不可ならトイレバック配布? トイレバック-BOS袋の使用よびかけ	塩素0なら、防災拠点からの水供給体制構築。	トイレゴミ出しルールを徹底	応急トイレは十分か?	ラライフラインの復旧状況に応じた対応		
生活物資班	物資対策 防災拠点支援物資対策 物資の分配対応 要援護者物資支援	理事会として食糧備蓄は行わないこと、個人備蓄、備蓄庫室の呼びかけ 冷蔵庫等にあるもので10日は10日は生活できる知識	1 集金室の防備品表示・説明 2 災害時の食事の工夫訓練 3 ヒール食調理など参加者体験訓練 (買袋をつかむ)	緊急対応 AED 応急手当て 負傷者搬送 病院搬送 電気、水、ガス、下水状況点検通電していても、余震が危険なら危険箇所へ虎ロップ等で立ち入り禁止処置	発電機で、エントランスから、廊下を歩ける程度にライティングがう(ガスボンベ管理備蓄)	必要な物資は、地域防災拠点に要請	支援物資の直接配送を依頼	個人備蓄ある世帯も底をつくの、集金室を拠点に物資を分配できる体制づくり				
	自身・家族の安全確保 初期消火・救出活動 可能な方は館内の支援ボランティア	家具固定 備蓄 水ー一人一日4ℓ(最低3日分) 食糧備蓄(理事会は備蓄しません) 応急手当て対策 防災情報への協力	安否確認訓練への参加 訓練に協力参加 食事訓練に参加	共用廊下に出て、近隣の安否確認 身の安全・家族・ペットの安全確保 出入口火防止 近隣(同じ階)の安否確認 火災・負傷・救出の場合、災害対策本部に知らせる	ドアにマグネット表示 (青＝OK 黄色＝不明 赤＝要救援・後援) 通電なら館内放送で同じ会で安否確認 可能な人は、二次災害に気をつけて、救出、救援活動に協力 トイレは、トイレバックか一回集金室までトイレ(みずは自分で汲んで使用)	家に住める状況の一人一人、水、夜間の照明などの準備を整えて準備。 家に住めない状況の一人一人非常持ち出し品、資具をまとめて防災拠点生活(関係小学校)準備	メイツでの共助体制に協力して生活 メイツのルール遵守 要援護者への支援 メイツの居室の整理・火事場泥棒対策 メイツ・防災拠点のルールを遵守し、協力して生活	ライフライン確立までの在宅被災生活確立 ライフライン確立、自宅生活可能にする努力。 館内ボランティア要請	可能な人は、要援護者への水、食糧対策等への館内ボランティア	緊急修理制度(住める場合) 「民間賃貸借り上げ制度(住めない場合)」の活用 ※ベイトがいる場合に課題あり	区分所有者は、マンションの臨時総会等に参加して、生活再建を検討	